

(仮称)テレワークセンター 空間等検討ミーティング結果概要

日時：令和2年12月19日(土)10:00~12:30
(両日同内容) 12月21日(月)13:00~15:30

場所：藤野総合事務所

参加者：19日18名、21日21名 計39名(申込54名)
(地域：23名、地域外：16名)

対象者：津久井地域に在住する方
センターの利用に関心がある方
(コロナ感染症対策のため、定員各20名に限定)



相模原市緑区役所区政策課



藤野総合事務所会議室棟



ミーティング風景



ミーティング風景

当日の流れ

1) 緑区役所 区政策課より、当会の趣旨、予定しているテレワークセンターの概要について説明

2) 5グループに分け事前に地域・地域外住民混合で配置したテーブルごとで自己紹介

3) テーブルごとに時間差で現地の会議室棟を見学

4) ワーク1として、自由意見で”どんな施設だったら使いやすい？
どんな施設になったらおもしろい？”という切り口で意見交換を実施

5) グループごとの発表の後、全体で主に話されていたテーマをもとに、5つのテーマを設定
テーマごとのテーブルへ興味のある方に移動してもらいワーク2を実施

6) ワーク2の結果をグループごとに発表

7) 最後にワーク3として施設名称を付箋に書きアンケートを実施



グラフィックレコーディング



ワーク1：どんな施設だったら使いやすい？どんな施設になったらおもしろい？

2020.12.19

A グループ

「施設・設備」

- ・ビジネス利用でもON/OFFが取れる空間
- ・セキュリティ、シュレッダー、内外防音(オンライン会議)
- ・ビジネス利用では少し区切られた空間
- ・重要な会議等、1人で行える場
- ・学生のオンライン授業利用
- ・災害時の機能
- ・駐車場の確保
- ・コロナ対策(換気・間仕切り)

「レジャー」

- ・地域資源とのふれあい、コンシェルジュ・都心へのPR
- ・知らない人同士でもコミュニケーションできる空間
- ・ハイキング、トレラン、サイクリング対応
(シャワー、ロッカー)
- ・やまなみ温泉と連携

B グループ

「IT」

- ・VRとリアル・5G
- ・SDGs発信基地、極力自家発電等再エネで運営
- ・藤野(緑区)の資源を活用した場所(地域材など)
- ・地場材・地場野菜、オーガニックなものの確保

「自然」

- ・ランチ、青空MTG等屋上が使えたら

「教育」

- ・週1~2回とか子どもの声が聞こえ、学び合える空間
- ・子どもの体験・探求ができる場(親は仕事)

「発見」

- ・地域のコトを考えるプロジェクト。 が生まれる
- ・自分のアイデアを実現できる仕掛け、場
- ・都心、他の企業のお客様など他の地域の方との窓口になる場所

C グループ

「ワーケーション」

- ・分野特化型シェアオフィス
- ・学校や何かとの組合せ

「特化」

- ・3Dプリンター、VR、ドローン活用
- ・人、スキルを組み合わせたインキュベーション型施設
(マッチング型)

「ワークスタイル」

- ・子どもが遊べる・預けられる(子連れシェアオフィス)

「住民・お父さん」

- ・テレワーク空間の中に会議に参加できるTelBoxのような施設
- ・図書館の学習スペースのようなテレワーク空間
- ・交流のためのカジノ。競馬中継
- ・予約制、スケジュールを利用者が調整できるインフラ整備

「コンセプト」

- ・with after beyondコロナと継続してつながるために、テレワークを発展していく
- ・コアとなる利用像を抽象化しないこと。広げすぎないこと。まずは焦点をあててイメージを集中。

D グループ

キーワード：Relax、つながり、Design

「設備・機能」

- ・ミニライブラリー・SDGsの研究拠点（さがみはらSDGsパートナーのMTG等）・Shared storage・芸術家と製品デザインの仕事をする場・中山間部のICT実験事務所・External Monitors・コンセント多数・屋根付きバイク

「コミュニケーション・イベント」

- ・呑みケーション・シェアをすすめる場作り・よろづで売買できる・Happy hour Fridays・Skill Share
- ・Work Share・Communal Projects
- ・おばあちゃんのご飯作りワークショップ

「飲食スタイル」

- ・地産品活用・コーヒー、
- ・キッチンがありシェアランチや個別スペースがある
- ・オープンなMTGスペース・おしゃべりOKコーナー

「拡張オプション」

- ・古民家&蔵・ホテルと連携。バラエティ・シャッター閉まっているお店・Open on weekends

「インテリア」

- ・Designデスク、椅子・芸術家作品展示販売・殺風景じゃないカフェみたいな内装・ソファ、ヨギボ、ハンモック、ブランコ・地域で集めた古家具使う・森の中オシャレ空間

「雇用」

- ・中高生、障がい者、バイト

E グループ

「空間・機能」

- ・朝早くから夜遅くまで使える&予約できる
- ・自宅で集中できない「静かで集中できる環境」
- ・防音会議室（電話会議室、録画・録音対応）
- ・リノベを建築家らと一緒に
- ・緑のシートを使ってバーチャル背景を使いたい
- ・高齢等で足が悪い人でも心配なく利用できる施設
- ・入口がわかりやすく、入りやすい。
- ・コーヒーメーカー、マルチプリンタ、3Dプリンタ

「起業促進」

- ・中小企業診断士？と連携した起業やイベント立ち上げの場（酒場）

「ネットワーキングの場」

- ・タスクネットワークが分散
- ・周りの施設との相乗効果（レーザー加工）
- ・いろんなグループの活動・イベントの情報がわかる
- ・全国の地方とつながるネットワークの拠点
- ・新しいアイデアを一緒に産み出せる場所
- ・学生が藤野にいながらリモートで授業参加など学生利用

「バリアフリー等多様性」

- ・いろんな年代の人がいる
- ・コロナ等対策が万全で安心感がある

子どもがいると仕事が集中できない「子ども・子育て」

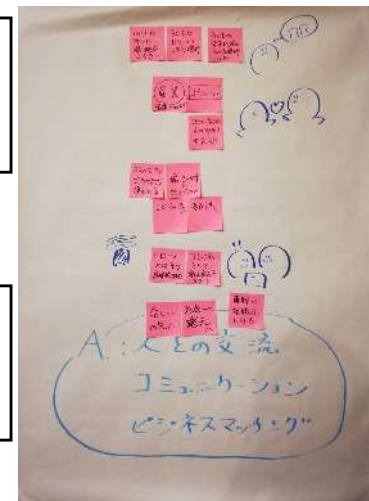
- ・保育サービス
- ・子育てにやさしいリモート施設

Aテーマ「人との交流・コミュニケーション・ビジネスマッチング」

- ・子どもたちが地域から出ていってしまう課題感から、子どもも居られる場所にしたい。
- ・また、地域に人が残っていくために、藤野での仕事が生まれる起業支援の場や産業のきっかけにして欲しい

Bテーマ「宿泊や地域イベントとの連携ワーケーション活性化」

- ・地域との連携のために、テレワーク拠点に「つなぐ人材」がいることは重要ではないか
- ・地域情報が拡散しているためITをベースに取りまとめていく必要性がある



Cテーマ「多世代が使える（高齢者・学生・子育て）」

- ・お年寄りや、子ども誰でも使えるためにバリアフリー化
- ・学生向けの地域企業との接点や企業促進などの意見、子育て世代向けの保育、託児機能への期待



Dテーマ「設備・インテリア・リノベーション（コロナ対策・BBQ）」

- ・防音の場所や、ゆったりとしたソファ、5GなどIT環境、図書館の機能
- ・藤野地域の特色を活かした場所として、アーティストとの連動や、自家発電、薪ストーブ、地場産業の家具等を活用

Eテーマ「コンセプト・地域としての位置づけ」

- ・社会課題（高齢者地域、仕事のない中山間）のソリューションの場、イノベーションの場としての期待
- ・都心と周辺地域の交流の場
- ・アップサイクルといった環境視点やマインドフルネス、豊かな暮らしなどの人間重視の潮流を抑える

ワーク1：どんな施設だったら使いやすい？どんな施設になったらおもしろい？

2020.12.21

A グループ

「課題」

- ・継続的な利用とテンポラリーを分けて考える
- ・金曜の夜から遊ぶことができる利点をどう活かすか

「地域連携」

- ・サスティナビリティのモデル地域となる
- ・農×狩猟、アクティビティ、お茶、蛭
- ・移住促進事業と連携
- ・アクティビティとして里山体験ツアーと連携
- ・センターからの足としてモビリティ活用を！
- ・カフェ、温泉、BBQをしながらテレワーク、テレラーニング
- ・星空を中継放送

「新商品開発」

- ・都内企業をボランティアで誘致・IT支援の自然（Goods）

「空間づくり・テレワーク環境」

- ・保育 公民館の保育室の活用、ファミサポとの連携
- ・2F交流の場（若者のたまり場）、3Fビジネススペース
- ・簡易な文房具販売・柚子ワインを飲みながらテレワーク

「宿泊」

- ・周りの宿泊施設と連携・地域の観光資源生かす

「アート」

- ・アーティストの方と連携・アーティスト作品化・壁面活用

「食」

- ・柚子などから新しい名産を
- ・出張ランチ、焙煎・喫茶・ケータリング、キッチンカー

B グループ

「空間系」

- ・24時間利用
- ・飲食可能であること
- ・津久井産材を使ったテーブル・イス
- ・気軽に相談できるくつろぎの場（Cafeも）
- ・シャワー室、ベッドが欲しい

「社会課題・ビジネス系」

- ・藤野の社会課題について解決していく場
- ・「気候変動の藤野学」の作戦会議基地
- ・利用者同士で協業（コラボ）
- ・個人がやりたいことをプレゼンし、そこに集う人たちとの対話を通じて実現していく場
- ・情報交換の場
- ・1人で使えるシェアオフィス。1部屋4㎡ぐらい

「レク・遊び系」

- ・ワーケーション的に半日：仕事 & 半日：登山等。
- ・ソロキャンプなどの合間に使用できるオフィス
- ・域内外の不登校の子どもたちが気軽に集まれる場

C グループ

「スペース活用・屋上など」

- ・外部空間（屋上、通り側、裏側）の活用
- ・屋上活用（グループワーク、喫煙、ランチ活用）

「リサイクル・リビルド」

- ・みんなで備品のアップサイクル
- ・木の香りがするような空間

D グループ

「施設の機能」

- ・ 駐車場、駐輪場、交通の足
- ・ 駅が近い、駐車場が広い
- ・ 家族で来られる。子どもは遊び、夫婦で仕事（託児？）
- ・ 居心地のいいデザイン（照明、内装、音楽、緑）
- ・ 電源、Wi-fi、オフィスチェアは必須
- ・ 音楽がいつもかかっている
- ・ くつろぎスペースの有るところ
- ・ 情報発信の場。四季、趣味、SNS、広告

「交流」

- ・ ゆず収穫とゆべし作り体験
- ・ 趣味のセミナー（キャンプ・釣り・陶芸・登山・蕎麦作り）
- ・ 困ったこと掲示板が壁にある
- ・ 地域の人と飲み会、イベント
- ・ フリーランス同士の交流、ビジネスのきっかけ
- ・ 自然体験活動リーダーがいる・泊まりとセット

「飲食・Café機能」

- ・ フェアトレード
- ・ 地域の農産物を使ったドリンクや軽食が出せると良い

E グループ

「コミュニケーション」

- ・ この施設に集うことで新しいコミュニケーションが生まれる
- ・ 誰もが入りやすい施設にする

「タイアップ。B to B」

- ・ アウトドアメーカー、登山雑誌
- ・ レンタサイクル

「地域連携」

- ・ 会社・ボランティア・住民が集まれる施設で、協働できる
- ・ 居ると仕事が発生する
- ・ 農林業の産物を活かした料理・菓子などの体験
- ・ 簡単な作業スペース。4～6人でのセット作業

「ソフト面」

- ・ 都内と藤野、新しい連携。地域の自然環境を活用したワークショップなど
- ・ 習い事、工作教室（MORIMOさんの端材など）
- ・ 芸術の街をアピールする撮影会等の企画
- ・ ワークショップができるスペース（休日と平日で使い分ける）

「建物」

- ・ 1名から複数まで利用可能な場所
- ・ SDGsを全面に出したワークスペース。自然エネルギー、サーキュラーエコノミー
- ・ 木を使った、自然が感じられるスペース
- ・ 藤野らしい、地元の木を活用

Aテーマ「ワーケーション」

< 地域をパッケージ化 >

- ・ワーケーションのプログラム化や、宿泊施設の連携、地域情報との連携などパッケージ化の重要性
- ・大人が働いている間の子どもの居場所や短期転校が出来ないか

Bテーマ「コミュニケーションの場」

< フジノチャンネル >

- ・人の紹介・アーティスト交流、セミナーイベント紹介、季節ものなど動画等での配信、スタジオも欲しい
- ・資源の活用。コーディネーターをおき、人と人がつながったり、様々な人材活用が計れると良い。各種WS体験



Cテーマ「レジャー・レクリエーション(体験)」

< 仕事と共にあるレジャー・アート >

- ・仕事の場所としてだけでなく、レジャーやアートが必要、地域と連携してできる深掘りされたレジャーやアート体験の情報も集約して欲しい

Dテーマ「空間・施設としての機能」

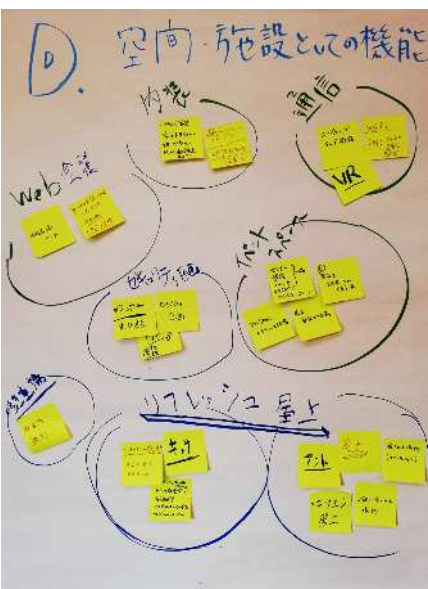
< 設備充実・リフレッシュ屋上 >

- ・使いやすい仕事場の機能についての様々なご意見等と共に、自社の製品をアピールする場や展示、販売・実験の場
- ・youtubeLIVEや、VR、WEB会議の場など・屋上を活用してのアウトドア的な体験

Eテーマ「社会課題 (SDGsなど)」

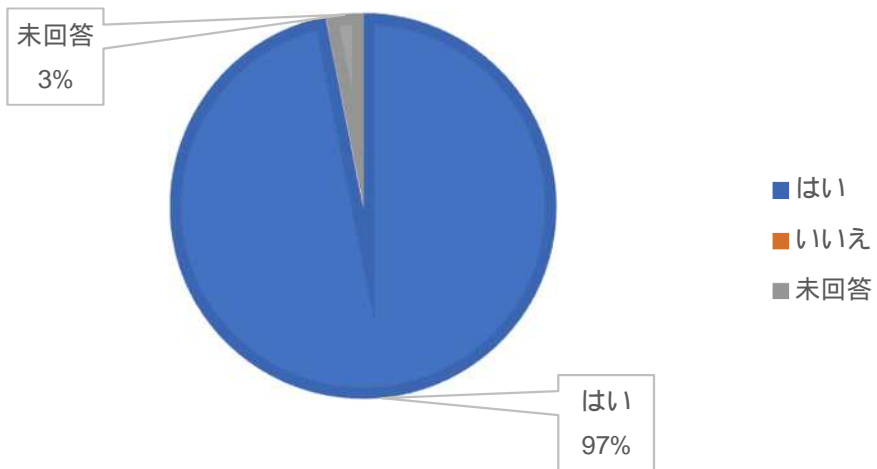
< SDGsの発信拠点にしたい!! >

- ・藤野にある様々な地域活動とも連携しながら、SDGsの取り組みや課題解決への協力拠点としたい。
- ・ゴミをなるべく出さない仕組みや「環境」に配慮した運営や、それらと連動した取り組みなども実施したい

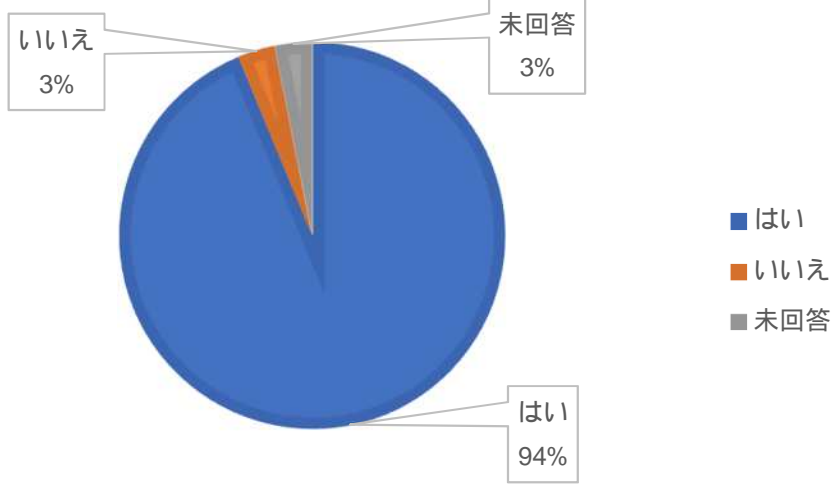


参加者アンケート（12月19、21日まとめ）n=32名（3.n=30名）

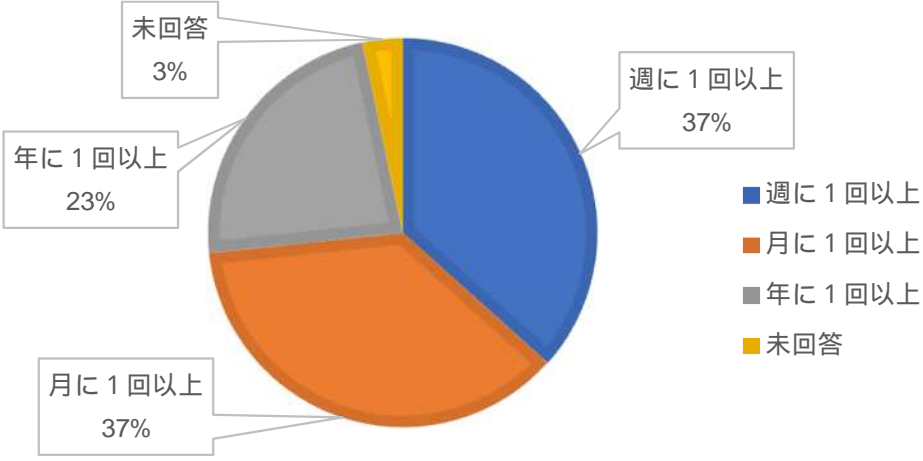
1. このミーティングを通して、藤野でのテレワークに対する興味が高まりましたか？



2. 来年度、実証運営時に本テレワークセンターを利用してみたいと思いますか？



3. （2で「はい」と回答した方のみ）どのくらいの利用頻度を想定していますか？



参加者アンケート（12月19、21日まとめ）n=32名（3.n=30名）

4.（2で「はい」と回答した方のみ）

どのような利用方法を想定していますか？

- ・撮影会の拠点、サテライトスタジオとして
- ・ワーケーションとして
- ・企業研修の場、商品企画のアイデア出しの場として
- ・「気候変動の藤野学」のワークショップの拠点として
- ・日常のオフィスとして、家族と一緒に
- ・ゼミ合宿など
- ・フェアトレード発信拠点としてSDGsへの取組に参加したい
- ・ZOOM会議の際に利用したい
- ・日常の緊急オフィスとして
- ・サテライトオフィスとして
- ・平日の昼間の一定時間（3h～）
- ・週3～4のテレワークのうち、週1～2回はセンターで
- ・友人とワーケーションするときの仕事場として
- ・自分で開催するイベント、ワークショップの会場として
- ・オンとオフの融合ができる場に活用できるのではと思った（金 仕事、土日バケーションなど）
- ・開催されるイベントに参加したい
- ・期間限定（半年～1年）の藤野生活体験の仕組みとして
- ・企業研修・社員旅行の出発拠点として（山梨、長野方面へ渋滞を避けて移動できる）

5. 自由意見

- ・人が活かせる新しいITを使ったライフスタイルの場にしてほしい
- ・藤野の特性を活かして、新しいライフスタイルのための拠点にしてほしい
- ・利用者の広がりがいい方向につながれば
- ・藤野のみならず近隣地域もふまえて考えたい
- ・かつてないON/OFF合わせたテレワークセンターを実現してほしい
- ・超面白い案件なのでとても関わりたい
- ・5Gを引いてほしい。自家発電
- ・よりSDGs的な場であつたらいいなと思う
- ・中山間地ならではの価値が生まれ、社会課題を解決するビジネスが生まれるような場になってほしい
- ・テレワークで来られた企業の方のお客様と藤野をつなぐ場にできたら面白いと思う
- ・都心から近い中山間部の地域性を生かした事業・活動のテーマを具現化する場となってほしい
- ・改修のプロセスもSDGs拠点としてふさわしいものにしてほしい
- ・公民館等周辺の公共空間も含めて一体的に考え、藤野らしいものにしてほしい
- ・他にない拠点を作ってほしい

